

研究発表 1-B

9:10 ~ 9:40

(552 教室)

司会：金光真理子

ノルウェーにおける伝統音楽の継承 —民俗音楽舞踊コンペティション「ランズカッ プライケン」への参与観察を通して—

酒井絵美

本発表の目的は、ノルウェー民俗音楽の伝承にとって大きな役割を果たしてきたランズカップライケン Landskappleiken を紹介し、そのハーディングフェーレ（ノルウェーを代表する民俗楽器）部門に出演した経験を踏まえて、伝統の捉え方や継承の方法を考察することである。

ランズカップライケンは、ノルウェーで最も大きなカップライク Kappleik（ノルウェー民俗音楽のコンペティション）で、毎年地域を変えて行われる。コンペティションだけでなく、白夜を利用して昼から夜遅くまでコンサートや参加自由のダンスタイムが開かれる。コンペティションには、個人演奏・地区対抗アンサンブル・ダンス・楽器製作などの部門があり、個人演奏部門は、Aクラス（上級）、Bクラス（一般）、Cクラス（ジュニア）、Dクラス（シニア）の部門に分かれる。

発表者は2015年のアンサンブル部門につづき、本年6月末初めて個人演奏部門に参加した。今回の発表は、自身が演奏者として参加することで得られる知見を精査する点で意義があると考え。具体的には、参加するクラス及び演奏者の立ち位置（どこの地方の奏者として出るか）の選択、選曲、コンペティションに特化したレッスンの様子、審査員・聴衆からのフィードバック、公営放送をはじめとするマス・メディアの取り上げ方などである。本来、音楽民族学は観察者として客観的な視点で行うやり方が一般的である。しかし、発表者はこれまでに5度ノルウェーをフィールドワークしており、今回当事者として参加したことで、表面には現れにくい多様な考え方や奏者の率直な感想に接することができた。

ノルウェーでは民俗音楽が衰退した時期があり、その後国家・個人レベルで自国の音楽の保存と伝承に力を入れてきた。その結果、現在では伝統楽器の演奏やダンスを行う若年層も増えてきている。コンペティションが伝統音楽の復興に貢献している例としても、ランズカップライケンは注目に値すると考える。